

命の不思議に 挑むまち・岡崎から

自然科学研究機構
生命創成探求センター

センター長 根本 知己 氏



教育隨想



令和7年10月1日

10月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育隨想	1
自然科学研究機構 生命創成探求センター センター長 根本 知己 氏	
この人に聞く	2
ドローン操縦士 野澤 成裕 氏	
羅針盤	2
矢作北中学校 校長 荒河 昌吾	
ふれあい	3
北野小学校 教諭 畑柳 圭祐	
特集	4
校章の由来を知っている?	
お知らせ	6
フォト・ヒストリー	8
大人数がいたころの学校 (昭和2年)	
この本を	8

岡崎は、自然科学研究の伝統を受け継ぐ歴史ある地です。その中で二〇一八年に発足した、「生命創成探求センター」は、「命とは何か」という根源的な問いに挑む、新しい研究拠点です。物理・化学・生物など分野の垣根を越え、国内外から集まった研究者が協力して、「生命と物質の境目はどこか」「極限環境に生きる仕組み」「人工的に生命をつくるのか」といったテーマに取り組んでいます。

私は岡崎国立共同研究機構・生理学研究所において十年間、研究に従事し、その後、北海道大学の教授として長く北の地に身を置きました。五年前に再び岡崎へ戻り、岡崎城の桜花や夏の花火に再会できたとき、改めてこの地への愛着を強くいたしました。ここで再び、研究の歩みを進められることを大きな喜びとして

います。科学という言葉は難しく響くかもしれません。しかし出発点は「なぜ?」「どうして?」という素朴な疑問にすぎません。私自身も、脳や神経の仕組みに魅了され、顕微鏡で生命を「見る」ことから探究の道を歩んできました。そして、研究とは一人で悩む営みではなく、仲間と力を合わせて未知を切り拓く共同作業です。そして、自然科学の学びは、性別に問わらず、誰にでも開かれています。次代を担う中高生、特に女子生徒が自らの関心を伸ばして、科学に親しむ環境を整えることは、私たち大人の責務とも言えるでしょう。岡崎からの挑戦は、未来の医療や環境、社会の在り方へと広がっていきます。

(ねもと ともみ)



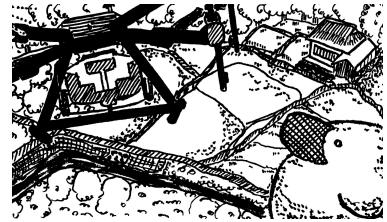
長年勤めた岡崎市役所を退職し、令和三年にドローン事業に特化した会社を創業した。社名には、ドローンの四枚の羽根を、幸運の四つ葉に重ね、多くの人々に幸せを運べるようにとの願いを込めたという。ドローンを通して、どのように社会に貢献しようとしているのか。野澤さんによると、多くの人々に幸運を運ぶよう、日々努力している。

「なぜドローンに特化した会社を設立したのですか？」

市役所時代、知り合いの電気屋さんから誘われた縁で、ドローンの資格を取る機会を得ました。その後、農家さんからの依頼で、ドローンを活用した薬剤散布を行ったところ、大変感謝されました。ドローンならば炎天下でも少ない負担で散布できることからです。他にも教育や点検など、

「仕事をする上で大切にしていることは何がありますか？」

ドローンの普及を目指し、次世代



誰一人取り残さない社会を目指して

ドローン操縦士

野澤 成裕 氏

ドローンに関する依頼が増えたことで、ドローン事業への可能性を感じるようになりました。定年まで公務員を務めるつもりでしたが、人生は一度きり。父の死をきっかけに、やがよいとの気持ちが一段と強まり、ドローンでの起業を決意しました。

「印象的な仕事はありましたか？」

形埜小学校でドローン講座を行ったときのことです。私の母親が市内の特別支援学級の教員だったこともあり、特別支援学級の子供たちに関わってみたいと考えていました。また、特別支援学級の子供たちに二時間かけて、操縦とプログラミングを教えていました。次に、その子供たちが教師役となつて、通常の学級で手本を見せながら使い方を教える場を設定しました。生き生きと活動する子供たちを見た校長先生から、「特別支援学級の子供たちが笑顔で楽しそうに教える姿が見られ、感動しています。機会を与えてください」と、ありがとうございます。」

「今後の展望を聞かせてください」

私は額田に住んでいるので特に感じるのですが、過疎化、少子化が進む現代において、一人一人の存在がとても大切です。人がいなくなると、地域は大きく衰退してしまいます。もし、ドローンに関する知識や技術を身に付けることができれば、身体的な特性に関わらず、誰でも社会で活躍できるはずです。ドローンを通して、誰一人取り残されることのない社会の実現に貢献できればと考えています。



「今後の展望を聞かせてください」

私は額田に住んでいるので特に感じるのですが、過疎化、少子化が進む現代において、一人一人の存在がとても大切です。人がいなくなると、地域は大きく衰退してしまいます。もし、ドローンに関する知識や技術を身に付けることができれば、身体的な特性に関わらず、誰でも社会で活躍できるはずです。ドローンを通して、誰一人取り残されることのない社会の実現に貢献できればと考えています。

氏名	野澤 成裕
生年月日	昭和五十二年 四月十三日
住所	岡崎市桜形町

ドローンに関する依頼が増えたことで、ドローン事業への可能性を感じるようになりました。定年まで公務員を務めるつもりでしたが、人生は一度きり。父の死をきっかけに、やがよいとの気持ちが一段と強まり、ドローンでの起業を決意しました。

「印象的な仕事はありましたか？」

形埜小学校でドローン講座を行ったときのことです。私の母親が市内の特別支援学級の教員だったこともあり、特別支援学級の子供たちに関わってみたいと考えていました。また、特別支援学級の子供たちに二時間かけて、操縦とプログラミングを教えていました。次に、その子供たちが教師役となつて、通常の学級で手本を見せながら使い方を教える場を設定しました。生き生きと活動する子供たちを見た校長先生から、「特別支援学級の子供たちが笑顔で楽しそうに教える姿が見られ、感動しています。機会を与えてください」と、ありがとうございます。」

授業観の転換

矢作北中学校

校長 荒河 昌吾

「教師は、授業が命だ」と、ある先輩教師から強く言われた。まだ私が三十代前半の頃である。

その頃の私は、部活動の上位大会の進出を目指し、土日もなく練習に明け暮れ、生徒指導では、毎日、夜遅くまで家庭訪問や問題行動の対応に追われていた。また、文化祭の合唱コンクールでは、クラス全員で自転車に乗り、矢作川の河口まで行き練習をするなど、行事や部活動、生徒指導ばかりに力を入れていた。そんな私を見かねて先輩教師は、助言をしてくれたのだ。

当時、私にとつて学校の教育活動の中で授業が最も大切であるという思いはなかつた。なぜか。それは、私は行事や部活動で見られる子供の輝きを授業で引き出す授業力がなかったからである。それゆえ、授業に対する意識も薄かつた。日々の授業



些細な一言で



北野小学校
教諭 畑柳 圭祐

手先が器用で工作に没頭するAさんは、一人で折り紙をしていることが多い。自ら進んで友達と関わることを苦手としていることも、一人でいる理由の一つかもしれない。進級した四月当初、頑張ろうとう気持ちで学習に取り組んでいたAさんだが、次第に机に伏したり、学習に関係ない行動をしたりするようになつた。そのようなAさんに、周りの児童が「意見を聞いてもらいたい」と困っている様子も見られるようになつた。児童たちはAさんとの関わりをもち続けてほしいと思い、Aさんが話すまで待つていてほしいと伝えていた。

ある日、児童の一人が声を出した。「先生、Aさんがノートをちぎつて折り紙にしています。」

「夏休み、旅行に行くんだよ。」「それは楽しみだね。」「ゲームの話や家族のことなど、たわいもないことを明るい表情で話すことが増えていった。また、「先生、作ったからあげるね。」

少し恥ずかしそうに私に折り紙の作品を持つてくるようになった。最初は一人で作った作品だけだったが、友達と協力しながら作つたくす玉のような作品も、教師の机に飾られるようになつた。

授業中、学習と関係ないことをしてしまつことにに対し、Aさんは、「やつてはいけないとわかつているけれど、勉強がわからないからやつてしまふ。」

と話した。今までAさんへの接し方に困つていた児童に、「Aさんもやらなければいけないと

達が集まり、和気あいあいと折り紙を始めた。皆に囲まれて、Aさんは少しだけ誇らしそうな顔をした。折り紙の助言をきっかけに、Aさんは休み時間に近づいてきて、雑談をするようになつた。

「夏休み、旅行に行くんだよ。」「それは楽しみだね。」「ゲームの話や家族のことなど、たわいもないことを明るい表情で話すことが増えていった。また、「先生、作ったからあげるね。」

少し恥ずかしそうに私に折り紙の作品を持つてくるようになつた。最初は一人で作った作品だけだったが、友達と協力しながら作つたくす玉のような作品も、教師の机に飾られるようになつた。

「ノートをちぎつたことはよくないけれど、小さい折り鶴ですごいね。次は折り紙で作つてみて。」「私が注意しなかつたことに、周りの児童は驚くも、折り鶴の小ささに、「本当にすごい。」

と、Aさんの行動に興味をもち始めた。次の休み時間、Aさんの周りに友達が集まり、和気あいあいと折り紙を始めた。皆に囲まれて、Aさんは少しだけ誇らしそうな顔をした。



思つてゐるけれど、自分からわからぬことは言えないみたい。みんなが教えてくれることは嫌ではないから、どんどん話しかけるといいよ。」「Aさんに、上手に話せなくていいから、ノートに書いてあることを見せて、と言つてみたら。」

話しかけてもいいんだと、解き方を教えた、「間違つていてもいいよ」「頑張ろうよ」と声かけしたりするようになつた。周りの児童の言葉からAさんの中に安心感が生まれ、学習に取り組むようになつていつた。

Aさんは、大きな声で褒められる事にも抵抗感がある。机間指導をしながら、さりげなく「できたね」と声をかけている。Aさんは、表情が柔らかくなり、明るくなつてきた。伏し目がちだつた姿から、顔を上げ、様々な活動において前向きに取り組むようになつていつた。

社会科「少子高齢化社会の福祉を考える」の実践で、生徒Aは、資料から少子高齢化が進む現状に关心をもつた。その気づきは教師の支援によって、自分事として、祖父をどのように介護していくかという単元を貫く間に高まつていつた。教師は、その子ならではの問い合わせを、その後の追究の核として大切にし、子供の思いをくんでいく。さらに生徒Aは授業での対話を通して、他の児童と自己の問い合わせをつなぎ、自分の生き方を考えるまで学びを深めていつた。

そんな子供が輝く授業に出会い、私の授業観は、大きく変わつた。一人一人違うことを前提に子供の実態や思いに目を向け、子供自身が学びを深めていくように、いかに伴走し、支援していくか。教師主導の一斉授業から脱却し、子供主体の授業をいかに実践するか。

私たちの求める学び方改革は、まず教師の授業観の転換から始まる。

校章の由来を知っている？



▲校門の見えやすい位置に設置されている校章（広幡小）



【梅園小】
葵の三つ葉と梅の花を
もとにデザインされた。



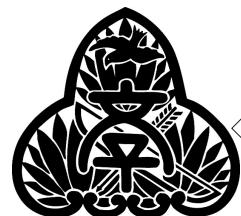
▲うめぞの梅園（梅園小）



【福岡小】



▲土呂陣屋の松（福岡小）



【山中小】



▲鳩ヶ窟（山中八幡宮）

校章の由来は様々である。文字をデザイン化したものや、生き物、自然、道具をモチーフにしたものなど、その学校にゆかりの深いものが多くある。『校章と自然 愛知県における校章の研究』（杉浦正巳編著）では、「校長をはじめ教職員や保護者の方々がその抱負や悲願の実現を図るために地域の環境、とりわけ自然を重視して校章づくりに意欲を燃やし、その中に願いをこめ、夢と希望を託しておられるのだと思う」と記されている。市内小中学校の中で、今回は植物をモチーフにした小学校の校章について取り上げる。

福岡小学校の校章は、北門一帯に植えられた「土呂陣屋の松」がモチーフとなっている。この松は、市の天然記念物となっており、江戸時代の旗本である山口内匠の陣屋敷跡に開設された福岡小学校を象徴とする植物である。この大松のよう

に児童が健やかにたくましく成長していくという願いが、校章に込められている。また、岡崎にゆかりの深い徳川家の家紋である葵を使っている学校もいくつある。山中小学校は、徳川家の家紋である葵を土台にし、鳩と弓矢をデザインしている。徳川家康公が一向一揆勢に追われていたとき、山中八幡宮社前の大鳩ケ窟に身を隠した際、白鳩により一生命をとりとめたという史実をもとにして作成されている。

近年、多くの小学校が創立百五十周年を迎えて、歴史や伝統を振り返りながら様々な行事を行った。校章の意味を読み解くことは、その学校の歴史や理念を知るきっかけとなる。子供たちや学校がどのように成長、発展していくか、刻まれた象徴をもとに、改めて考えてみてはいかがだろうか。

梅と芭蕉



【岩津小】

岩津天満宮の「梅鉢」にバショウの葉が配された。

桜と稻穂



【秦梨小】

桜の花に「秦」を配したものが中に置かれ、稲で囲われた。

田と稻穂



【恵田小】

地区的田を円形で結び、協力と協調が表された。



【豊富小】

ものづくりの大変さと教育することの意味が込められた。

しだ



【小豆坂小】

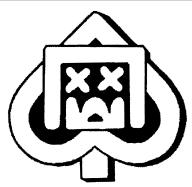
校名と家康公が使用した兜の歯朵の前立てが組み合わされた。



【井田小】

三ツ葉葵の中に町名の「井田」が配された。

葵



【岡崎小】

岡崎藩主本多家の家紋「立葵」に「岡」が配された。



【大樹寺小】

徳川氏の家紋「葵」の若葉をかたちどって「大樹」が配された。

桜



【本宿小】

桜の花に校名の頭文字「本」が配された。



【広幡小】

桜の中に「広」が配された。校歌に桜と平和についての歌詞がある。



【常磐小】

すくすくと伸びる若松の成長性が表された。



【常磐東小】

と(き)わに変わることのない東の学校の意味が込められた。



【形埜小】

「八咫鏡」を象徴している。桜の様に潔く、神聖な鏡に姿を映し、反省を重ねて立派に成長してほしいと願いが込められた。



▲運動場の桜（形埜小）



【常磐南小】

強い生命力と繁栄の願いが込められた。



▲正門近くの黒松（常磐南小）

藤



【藤川小】

藤の花が川面に美しく映えていた様子が表された。



▲特別棟前の藤棚（藤川小）



【上地小】

新たな伝統を築こうとする意味が込められた。



▲けやきの木（上地小）



●令和七年度研究発表会

◆岡崎市立城南小学校

十月十五日(水)

自ら学びに向かい、他者との
関わりの中で、新たな価値を
創造できる子の育成
—学び方の選択と考え方の再構
築を通して—

城南小学校では、子供が自
分の考えをもち、仲間と聞き
合いながら学びを深める授業
を進めてきた。全ての子供が
「自分の考えをもつ」ことか
ら学びを始められるよう、複
数の学び方を提示し、自分に
合った方法を選べるよう支援
した。また、互いの考え方を尊
重しながら聞き合うことで、
考え方の再構築が促され、対話
しやすい環境づくりにも取り
組んだ。振り返りでは成長を
可視化し、次の学びへの意欲
につなげてきた。

当日は、研究発表、全学級
行う。

※市委嘱 (R5~7)

の授業公開、授業を語る会を行
う。

※市委嘱 (R5~7)

◆岡崎市立大樹寺小学校
十月二十九日(水)

「みんなが学びの主人公」と
なる全員参加型授業の創造
—一人一人の発想・感性が生
きる学び合いを通して—

◆岡崎市立甲山中学校
十月二十二日(水)

子供たちのウェルビーイング
実現にむけた教育の推進
—子供の発達を支える生徒指
導—

甲山中学校では、「子供た
ちのウェルビーイングの実現
にむけた教育の推進」を研究
主題とし、研究を進めてきた。

全教育活動において発達支持
的生徒指導を大切にした教師
支援により、自己有用感と心
理的安全性を高め、自己実現
に向かって行動する生徒を育
もうと考えた。具体的には「授
業づくり」、「絆づくり」、「居
場所づくり」を三つの柱にし、
支援のあり方を考え、実践し
た。授業では、「生徒指導の
実践上の四つの視点」「発達
支持的生徒指導」を学習指導
案の中に位置付けるとともに
に、自ら判断・決定して適切
に表現する活動(アウトプッ
ト)を意図して行っていく。

当日は、研究発表、全教科
の授業公開、授業を語る会を
行う。

※市委嘱 (R5~7)

・3000m
出場 福岡中 坂井 俊太
・4×100mリレー
出場 岩津中 吉見 清川 龍昇 渡邊 拓実 遼

準優勝 葵中 浅井 月音
会バレーボール大会
出場 矢作北中 矢作中

○男子の部
出場

出場

吉見 温人 高橋 支葵 快心

出場 六ツ美中 村松 横井 心菜

出場

新香山中 原 彩葉

出場

川瀬 芽咲

出場

永山 ねね

出場

横井 心菜

出場

新香山中 原 彩葉

出場

村松 横井 心菜

出場

吉見 温人 高橋 支葵 快心

出場

六ツ美中 村松 横井 心菜

出場

新香山中 原 彩葉

出場

川瀬 芽咲

出場

永山 ねね

出場

横井 心菜

出場

新香山中 原 彩葉

出場

村松 横井 心菜

出場

吉見 温人 高橋 支葵 快心

出場

六ツ美中 村松 横井 心菜

出場

新香山中 原 彩葉

出場

横井 心菜

出場

新香山中 原 彩葉

出場

横井 心菜

出場 矢作北中 矢作中

出場

北中 河合中

出場 矢作北中 矢作中

出場

北中 河合中

出場 矢作北中 矢作中

出場

北中 河合中

出場 矢作北中 矢作中

出場

北中 河合中

出場 矢作北中 矢作中

出場

北中 河合中

出場

2位	立美北中	柵木	快心	○女子の部
4 × 100 m リレー	400 m	吉見 温人・立田	輝 遼	5位 六ヶ美北中 種池 祐月
5位	岩津中	清水	陸功	400 m 個人メドレー
砲丸投	7位 岩津中	渡邊	拓実	8位 甲山中 鈴木 彩心
出場	南中	○女子の部	男子 55 kg 以下級	平泳ぎ 100 m
走幅跳	出場 常磐中	森本 獅生	出場 関崎 West 岸本 武士	翔南中 坂野 愛莉
3年 100 m	2位 新香山中	芽咲	男子 60 kg 以下級	5位 六ヶ美北中 種池 祐月
円盤投	4位 翔南中	鈴木 万結	出場 鶴崎 West 岩月 鳯真	○中学校 A の部
1500 m	5位 竜南中	佐野伊桜里	○A 編成の部	金賞・県教育委員会賞・
100 m H	8位 竜海中	永山 ねね	○B 編成の部	朝日新聞社賞 美川中
走幅跳	出場 甲山中	森田 あお	◆ 第46回愛知県ジュニアオリンピック陸上競技大会 2025	◆ 2025 年度愛知県吹奏楽コンクール愛知県大会
800 m	出場 甲山中	近藤 彩	◆ 第46回愛知県ジュニアオリンピック陸上競技大会 2025	◆ 第80回東海吹奏楽コンクール
出場 矢作北中	走幅跳	2位 竜海中	◆ 第46回愛知県ジュニアオリンピック陸上競技大会 2025	○中学生 B の部
400 m 個人メドレー	2位 東海中	田井中大和	◆ 第46回愛知県ジュニアオリンピック陸上競技大会 2025	金賞・朝日新聞社賞
100 m バタフライ	2位 中山	大和	◆ 第46回愛知県ジュニアオリンピック陸上競技大会 2025	矢作中
5位 城北中	新太	○男子の部	◆ 第46回愛知県ジュニアオリンピック陸上競技大会 2025	美川中
◆ 第47回東海中学校総合体育大会	◆ 第42回NHK杯全国中学校放送コンテスト	◆ 日本道路協会表彰	◆ 第92回NHK全国学校音楽コンクール愛知県コンクール	○小学生の部
○テレビ番組部門	○道徳功労者の部	○他の模範	○小学校の部	○小学校の部
出場 竜海中	奥殿小	金賞	○教育委員会表彰	○教育委員会表彰
400 m 個人メドレー	ラジオ番組部門	金賞	三島小 合唱部	三島小 合唱部
2位 東海中	パソコン部	三島小 合唱部	梅園小 合唱部	梅園小 合唱部
5位 城北中	パソコン部	○男子の部	○男子の部	○男子の部

第63回 小学校水泳大会 大会結果

【北ブロック】会場：市内小学校プール

種目	男 子			女 子		
	氏名	学校	記録	氏名	学校	記録
5年 50m自	木俣 亮佑	細川	35"6	大平 彩葉	広幡	33"1
6年 50m自	杉本 晴亮	矢作北	31"7	羽戸 陽咲	矢作北	35"7
6年 100m自	吉見 龍羽	矢作南	1'07"8	森本こはる	北野	1'10"5
6年 100m平	吉岡 鷹助	矢作南	1'30"1	柳楽 柚羽	矢作西	新1'22"0
6年 50m背	合田 哲太	矢作南	40"7	河津 祐希	北野	35"8
6年 25mバタ	後藤 陽貴	矢作南	16"6	大西由里子	細川	16"8
6年 50m平	辻本 理矩	矢作東	39"0	中村 美結	矢作北	53"5
200m リレー	後藤・太田 吉見・吉岡	矢作南	2'14"2	服部・島田 山口・齊藤	矢作東	2'24"9

種目	男 子			女 子		
	氏名	学校	記録	氏名	学校	記録
5年 50m自	横山倫汰朗	上 地	31" 4	星川 爰理	岡 崎	33" 4
6年 50m自	大原 真冬	上 地	34" 6	高橋 奈生	三 島	37" 0
6年 100m自	佐野 瑛亮	三 島	1' 22" 2	高野 真帆	三 島	1' 11" 6
6年 100m平	畠野 謙吉	六 西	1' 33" 6	石田麻日向	六 中	1' 36" 9
6年 50m背	松井 嶽馬	小豆坂	36" 5	竹内菜々花	岡 崎	38" 9
6年 25mバタ	小林 優碧	上 地	新14" 7	松本 佳純	六 中	17" 4
6年 50m平	栗田 湊	羽根小	50" 0	服部 百夏	上 地	49" 6
200m リレー	大原・鈴木 横山・小林	上 地	2' 19" 3	竹内・中川 壁谷・星川	岡 崎	2' 32" 3

教職員の相談窓口

【対象】全教職員 【相談内容】・勤務のこと・家庭のこと・心や体のこと 等

相談窓口	電話番号	相談受付日時	あいちこころのサポート相談(SNS)
岡崎市教職員相談ダイヤル	0564-64-3322	火曜日～金曜日 12:00～19:00 土曜日 12:00～16:30	
あいちこころのサポート相談(SNS)	右QRコード	月曜日～土曜日 20:00～24:00 日曜日 20:00～翌月曜日 8:00	LINE 友だち追加・ID検索 @aichi_soudan
愛知県総合教育センター教育相談	0561-38-2217	月曜日～金曜日 9:00～17:00	
あいちこころのホットライン365	052-951-2881	年中無休 9:00～20:30	
愛知いのちの電話	052-931-4343	年中無休 24時間	

・カ
ツ
ト
根
石
小
七
野
友
紀

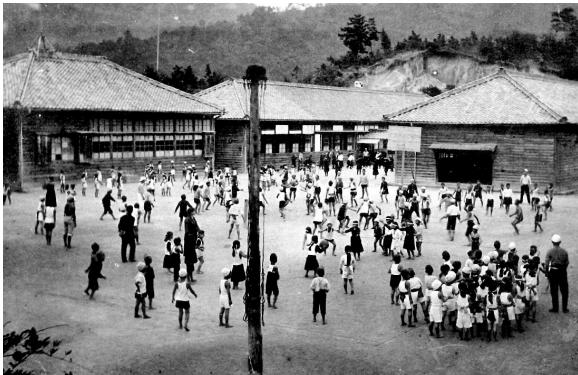
大人数がいたころの学校 (昭和2年)

写真提供：形埜小学校

写真は、昭和初期に撮影された、形埜小学校の前身、形埜村立形埜尋常高等小学校の様子である。木造平屋建ての校舎の前、運動場で大人数が運動している。

昭和2年、児童数は二三三二名であった。学校では、蚕業講話や農業実習の講師として村民を招いていた。その後、最大三四〇名まで達した児童数は、現在、四十二名にまで減少した。ササユリの保護活動や森林観察、間伐体験など、地域の資源を生かして、地域の方から学びを深めている。

岡崎市内の多くの小学校で、年々児童数が減少している。しかし、地域と学校が一体となり、各学校の特色のある教育を行うことが地域を盛り上げることにつながる。



ほうきを手に、学芸会で演じる一場面を繰り返し練習する。何度もせりふを言い、必死に動きを覚える子供のひたむきな姿に感嘆させられる。教師は子供の成長を間近で見守り、時には背中を押し、感動や達成感を共有することができる。その喜びが何よりの喜びであり、仕事を続けていく大きな原動力になる。

「得意分野を生かし、地域に役立つ仕事がしたい。」笑顔で語る野澤さん。

**ど
ホ
り**

神無目



▲地域ブロック部活動での大会(弓道)

月日を重ね、築いてきた学校の歴史。校章はその歴史とともに歩んできた紛れもない伝統の一つである。単なる学校を表すマークではない。校章に込められた願いや思いを改めて考える。そこには、学校や地域が大切にすべき姿がある。願いや想い、そして伝統を大切につづ、新たな歴史を積み重ねていく。

目指して教材研究、授業実践に励みたい。



*本を読めなくなった人のための読書論 若松 英輔
亜紀書房 ¥1,200

心に残った一文

読めない時期にも意味がある。

図書館に足を運ぶわずかな時間が、慌ただしい日々の中での静かな喜びとなっている。本棚の間を歩き、まだ読んでいない本の気配に耳を澄ます。本書に出会い、自身のささやかな楽しみや喜びが、著者の語る「読むこと」の本質に、少しばかり通じている嬉しくなった。

著者は、読書を単なる知識の摂取ではなく、沈黙と対話する営みとして捉えている。読めない時期もまた、読むことの一部であるという視点は、時間に追われ、時に本に向かう気持ちになれないことへの焦りを、優しくほどいてくれる。

- | | |
|----------------|--------|
| *自己調整学習 | 木村 明憲 |
| 明治図書出版 | ¥1,960 |
| *新しい、美しい日本の図書館 | 立野井一恵 |
| エクスナレッジ | ¥1,800 |
| *デザインを、経営のそばに | 八木 彩 |
| かんき出版 | ¥1,800 |

竜谷小学校 手島 露子